

会議内容報告

「こども食堂円卓会議～こどもの居場所を創りませんか～」

1 開催日時 平成30年9月19日(水) 13:30～15:30

2 場 所 教育文化会館 3階第3研修室

3 目 的

円卓会議は、こども食堂に関心を持つ各種団体、市民の方々が集い、こども食堂のしくみや今後の方向性について話し合うこと、子どもたちの居場所づくりの知恵を出し合い、情報交換をし、互いの強みを生かしあえるネットワークをつくることを目的にします。

4 当日参加者 38人

5 プログラム

13:30～ はじめのあいさつ

13:40～14:15 話題提供

「こどもの貧困」や「橋本市のこども食堂」の話

14:20～15:10 参加者の皆さんの交流会(3人程度のグループで)

「あなたができること、みんなでさがしてみませんか」

※ お互いのことを紹介しながら、こども食堂実施者の方々、食材提供いただいているの方々、行政への質問なんでも大丈夫。

15:10～15:30 出てきた意見を紹介し、さらに皆さんで討議。

終わりのあいさつ

「今日のまとめと次の開催に向けて」

6 円卓会議の意義

大切なことは、自由、活発、協働。職種や肩書きは関係なく、これからのこども食堂のこと、子供たちを支援する居場所のありかたについて語り合い、実践につなげます。

7 会議進行記録

(1) あいさつ(上田 総合政策部長)

①日頃の行政への協力についてお礼。

②昨年の7月に橋本こども食堂認定制度創設。現在4箇所でこども食堂が開設。ボランティア、食材してくれる企業さん・その他の皆さんに支えていただいている。本日は、こども食堂に関係する皆様、その他の方によっていただいでこれからのこども食堂のあり方、方向性、また、子どもの居場所づくりについて話し合ってください機会。



- ③H18の出生児数は500人を超えていた。しかし、昨年は378人、10年で2割減。子どもは本当に宝。これからさらに高齢化率も高まっていくが、それを支えていくのは子どもたち。子どもを核にして、そこに大人が集まって、そして地域をつくっていく。こういう考え方で臨まなければならない。
- ④今日の会はそういったことを考えるスタートライン。有意義な会に。

(2) 話題提供「子どもの貧困とこども食堂について」(教育福祉連携推進室 佐藤)



①2016年朝日新聞から「こども食堂」の定義紹介。こども食堂の目的や役割の変遷(子どもの貧困からスタートしたが、貧困は枠にはめたり、線で分けたりできないものだ)と判断されてきたため。)について話す。

②子どもの貧困。相対的貧困率について説明。OECD等先進国では貧困は相対的貧困で判断。日本の子どもの貧困率はOECD

平均よりも高い。特にひとり親の貧困率は前回調査では最下位。相対的貧困率の高さは、将来的な発展の可能性の低さと関連して評価される。

- ③4つの事例を赤、黄、青で分ける。⇒解説。

健康、就労、虐待、いじめ、不登校など、一つの状況が変化する(加わる)と、黄信号が一気に赤信号になってしまう。もし、子どもたちや家庭を見守ったり、関わったりできる人がいたら、救われたかもしれない。⇒こども食堂は、交流できる居場所、変化に気づき支援につなげる可能性のある居場所。

- ④橋本市のこども食堂は、利用者を限定していない「共生型」。(来ている人たちは必要だから利用していると考えている。)運営を始めるとボランティアさんが増え、食だけでなく、プラスワンの居場所になってきているのが特徴。運営形態は多様で、今年6月から始まったこども食堂は「孤食の高齢者」も利用し交流できる場になっている。(交流・コミュニティの場、要の気づきと専門職へつなげる場)

- ⑤橋本市の子どもの貧困率について(可処分所得を含めて説明)。昨年度の実態調査のまとめでは、中央値が238万円、困窮家庭は118万円、子どもの貧困率14.4%。全国平均同様、結果として7人に一人が困窮家庭だという結果が出た。

- ⑥生活実態調査から分かったこと。「困窮率が高いほど朝食を食べてない子が多い」「孤食はさらに割合が上がる」「夕食は、困窮度に寄らず孤食の割合が2割ほどある」。「塾や習い事を辛抱させた割合は困窮度が高いほど多い。」「困窮度に寄らず4割の子どもが自分に対する自信がない、どちらかというと自信がないと回答」。「毎日の生活で楽しいのは一人である時と、4割の子どもが回答」。「嫌なとき、悩んだりしたとき誰に相談しますか」に対して、相談相手がいない・相談したくないと答えた子が合わせると10数パーセント。経済的課題は健康(食の課題)、孤立感や自己有用感につながるということが明らかになった。

⑦こども食堂 DVD 視聴

⑧こども食堂の役割とは、利用している子どもたち、保護者のしんどさを救済する（専門職つなぐケースも含め）役割と今以上にしんどくさせない予防の役割を持っていると考えている。それだけに、誰でも来やすい居場所でなければならない。民間で実施しているよさ、民間と民間がつながる強さ、居場所の意味合いが増えることで気づける可能性も増える、プラスワンの居場所充実が進むことを期待している。

(3) 食材提供の業者さんから

◎三ツ星ファームさんから



①きっかけは、橋本市のまちづくり会議に参加したこと。本社として何がまちづくりにつながるかを考え、子どもたちを育てることに関係したことで参加したい。そこで、本が行っている「水耕栽培」の葉物野菜をこども食堂に提供することを思いついた。少しでも応援し、将来を担っていく子供たちに、生活の基盤になる衣食住の食の部分で支援さ

せていただいている。

②本社には、衣食住の食を充実させることで人づくりに貢献したいという思いがある。今年7月グローバルキャップという安全安心の世界基準をクリアしているという認証をしていただいております、そのような食材を提供し、日本を背負っていく子どもたちがこのまちから一人でも多く育ててほしいと思っている。今後も微力だけれど支援を続けたい。

◎オカザキ紀芳庵さんから



①観光土産の卸をしている。扱っている商品にはサンプルがたくさん出てくる。最初は、サンプルを廃棄するならそれを食べてもらおうというのがきっかけだった。橋本市は観光事業に力をいれ、橋本市に人が集まってくれるよう努めているが、結局は橋本市に住んでいる人にとって誇れる町になれるかどうか勝負だと思っている。そのために、住んでみたいまち、子ども

にとって楽しいまちになることがまちづくりには大事なことです。人口減少が進んでいるが、人口が減ることは企業にとっては重大な問題。子ども食堂に支援することは子どもの将来を応援すること。それは自分（企業）のためでもあると思っています。

②20年前、自分の娘が10歳のとき白血病で亡くしている。子どもを亡くした悲しみ、いなくなった悲しみは非常に大きなものがある。そんな思いもあって応援させてもらっている。

◎坪井さんから、実施団体を代表して



①企業さんからいつも親切に支援いただいて、スタッフ自身があったかな気持ちになれました。運営するには経済的な課題と切り離すことはできないなか、企業さんからの支援は大変ありがたかった。事業者自身が孤立感から解消された。

②子ども食堂が各地で開設されればいいなあと思いますが、運営し、継続させていくにはも

っともつなげることができる関係が広がっていく必要があるんだと思います。そんな関係ができていけば、橋本市は素晴らしいまち、支えあいのまちづくりが進むことだと思います。

(4) グループディスカッション

- ①学びあい、全員参加、
- ②一人ひとりの考えを尊重

話し合ったテーマ・・・3人グループ単位でテーマについて意見交換⇒意見紹介

※テーマごとに発表してくれた方々の意見を記載

テーマ1：「橋本市のこども食堂の話聞いた感想」

<学童保育の指導員の方①>

学童を利用している子どもたちが「うさぎさん」にお世話になっているので、子ども食堂のことを知りたくて参加しました。学童でも、子ども食堂のチラシを貼って知らせていますが、「私らに関係がない」「困っていない」というふうに思う保護者はいます。私も食に困っている人が利用するんだと思っていたし、保護者も子どもと一緒に参加すると聞いていたので「本当に参加する必要があるのか」と思う気持ちもありました。今日、居場所の提供をする役割があるというのを聞いて「なるほど」と思いました。私たちのグループでは、支援はいつまで続くのかという話が出ました。全国ではフードバンクの取組が広がっているという話も聞いて、いろいろな形で発展していけばいいなと話しました。

<高野口こども食堂の利用者の方>

高野口こども食堂に子どもと一緒に参加させてもらってました。子どもも喜んで参加してましたし、自分も親同士が会える場として、先ほどのコミュニティの場として誘い合って参加してました。場所が公民館で、小さい子にとっては1度家に帰ってから参加するので、親と一緒にないといけないという理由もありました。上には小学生・中学生のきょうだいもいるのですが、小さい子どもの参加が多かったので、上の子は置いて、私と下の子どもが参加するようにしてました。皆と会ってゆっくりした時間を過ごさせ

てもらってました。高野口として、また、こども食堂が開催されることを願って参加しました。

テーマ2：「あなたが感じる子どもの社会的課題とは…」

<大阪市内で子どもの支援を行っている方>

大阪市内のこども食堂（名称は違う）で週3回実施。特に長期休みの間に体重が減るといふ子どもがいるので、とにかく必死でご飯を食べさせようとしている。探し出してでも食につなぐアウトリーチを試みている。橋本市との出会いは、3年前、講演に呼んでもらったこと。それ以来、橋本市内に空き家を借りて、週末になると子どもたちを連れてきて体験活動をさせている。大阪と橋本、状況は違えど全く違う話ではない。橋本市の子どもの貧困率は全国平均より高いという話を聞いて驚いた。もっと落ち着いていて10%を切るくらいかなと思っていた。地域間格差があるのかもしれない。それなら一律の対応をするのではなく、地域の特色に沿った取り組みでないといけないんだろうと感じた。

<地域で里山学校を実践している方>

校舎のない自然中での体験活動をしている。今日も朝から稲刈りをしてきた。子どもたちが全力で自由を出し切って、全力で遊べる場所って今ない。それを用意しないといけない。橋本市ではそれを用意できているという自負をもっている。大勢の子がやってきてくれればきっと良くなる。人間性が良くなると思う。虐待で亡くなる子を思うと本当に心が痛い。どうしてそうする親に育ったのか、幼い時から自然に出会い虫と戯れるそんな体験ができれば、そんな親に育たなかったかもしれない。

<読み聞かせの活動をしている方>

ストーリーテリングという活動をしている。

自分たちのグループで出てきたのは、最近の子って「夢がもてない子どもがいるよね」。それは、経験が足りないことが原因しているのかもしれないという話をした。挑戦して、失敗してももう1回なってみればいいやん、そう言えるようになればいいんだけど、失敗したらどうしようと先にしり込みしてしまう。自分の殻を打ち破る経験をしてほしい。実際にできなくても絵本や読書の中で、いろんな体験や知らない世界を知ってほしい。（大草原の小さな家から自身が、家族、父親像、母親像を見出した話）

<自然体験活動支援をしている方>

子どもの自然体験活動をしていると、自分自身、こども食堂や子どもの貧困に関して関わりがないと思う。私の活動では参加費をもらっている。子どもたちはお母さんと公民館を利用していたり、学童を利用したり、豊かだったり、普通の生活ができる子どもさんだと思う。精神的貧困や経済的貧困で本当に本当に底辺にいる子どもたちが見えてこない。今日参加して、そのことが大きな課題なんだと感じた。

テーマ3：「課題の解決に向けて、こども食堂があればいいなと思う機能は？」

<橋本東こども食堂のスタッフの方>

ボランティアとして、こども食堂のある日は午後2時頃に集まって、準備にかかり、片付けが終わるのは夜の9時ごろまで一所懸命働いています。子どもたちが食事に来るのは午後6時から8時頃まで。高校生ボランティアの学生たちも頑張ってくれています。食事に来る子どもたちと話していると、帰ってきて4時から6時頃まで、ひとりで留守番してたという子どもがいることを知りました。食事のスタッフがそんな子どもたちの相手をするにはできないけど、学生ボランティアの生徒さんだったら関わってあげられるかと…。食以外の居場所づくりという意味では出来るんじゃないかと思いました。



<橋本こども食堂で学習支援してくれている方>

私ができることってなんだろうって考えました。

貧困で、子どもは不登校を経験し、高校で学校に通ったけれど、大学進学をあきらめさせしまった経験があります。(そのことを踏まえると、) 経済的にしんどい家庭では塾に行かせることも、学童を利用することもお金がかかってあきらめるしかないなら、自分



はこども食堂に来た子供さんたちに学習のお手伝いをしたり、保護者の悩みの相談を聞いてあげることができるかもしれないと思いました。これからのこども食堂はプラスワンという話がありました。近くにこども食堂が増えて、歩いてやってこれて、お母さんが迎えに来てくれるまでの間に勉強もできている。ボランティアの数はたくさんいると思いますが、そんなこども食堂になっていけばいいと考えました。

<学童保育の指導員の方②>

学童に来られなくなった子どもがいます。ご飯食べてないかも、ネグレクトかも、そういうことに気づかされることがあります。学校の先生とその子どものことで相談し、こども食堂が利用できるように取り組んで、つなげることができた。対象を限定しないということで救われる子どももいるとは思いますが、そこまで行けない子どもをつないでいく組織が底辺にあってほしいとおもおう。(関係する皆さんが相談しあえる組織の必要性について)

<共育コミュニティコーディネーターの方>

グループでの話の中で出されていたのは、登校前の朝食があればなあという話でした。

自分の娘もそうなんだが、朝起きるのが遅くて時間がない、顔を洗って、着替えるとだかけることもある。支援が必要な子を把握するのは容易ではない。それができるのは学校だったり、学童だったり、子ども食堂をしてくれている人だったり。ちょっと離れている人には分からないけど、わかっている人がいる。個人情報なのが課題になることが多いが、少しオープンにしてくれたら、必要な関係者にだけでも話してくれたら、声をかけたり、関わり方を注意したり、できるだろうと思う。

テーマ4：さいごに、誰かこれだけは・・・(時間がなかったので)

<自然体験活動を行っている方>

すごくいい会に出させてもらった。今まで、子どもの状況を知る機会はなかった。来年度自分たちは「森の幼稚園」という事業をする。お手伝いのお母さんスタッフのお子さんに一人ひきこもりの傾向の子がいる。小学生だけれど連れてきていいかと聞かれて、学校に行けないのならいいよと話した。年下の子たちの相手をしながら、自然の中で遊んでみる。その体験から一歩ずつ、違う居場所へ。学習支援、こども食堂へ…。自分たちだけで活動すると限界がある。やはりネットワークをつくる。今日来させてもらって、横のつながりで自分たちのできることが広がり、力を発揮できるんじゃないかと思った。

<日頃から子ども食堂を支援してくれている方>

こども食堂を続けてもらいたい。そのためには運営に関するお金の問題がある。国の学童に関する考え方をみても、利用者目線で施策を考えているようになってきた。今のタイミングがチャンスのように思う。国にも働きかけながら、こども食堂の支援がもらえるよう、補助金が入ってくるよう動いていく。いつ実現するかわからない、まだまだ先になるかわからないが、突破口をあげ、政府でも努力してもらえるようにと考えている。

8 参加者の感想(アンケートから)

①アンケート提出者(22人 男性11人、女性11人)

②年齢別内訳 20代:1人、30代:1人、40代:5人、60代:8人、70代:3人

③いただいたご意見・ご感想

<ア> 円卓会議に参加したご意見・ご感想を自由にお書きください。

- ・円卓会議なのに卓がない。(笑)。
- ・勉強したいと思ったから。
- ・有意義な会議に参加させてもらいました。短い時間でたくさんのテーマについて話せてよかったです。
- ・考えが深まった。

- 皆様の声に耳をかたむけられた事は良いことだと思いました。
- こども食堂に行ったこともないのに参加しました。いろいろな団体がいろいろなことに取り組まれているお話を聞いてよかったです。
- いろんな立場の人の参加があってよかった。
- いろんな関係機関の方とお話できてとてもためになりました。
- たくさんの意見が聞いてよかったです。
- 知らなかったことや団体が多くあり、それぞれの考え方や働きを知る機会になれてよかったと思います。微力ながら何か力になれることで協力していけたらと思います。
- こども食堂（橋本）では、学童⇒こども食堂と思っていたが、学童にも行けない、学童での子どもの変化で虐待の事実もあるということが分かった。外に出れない子どもたちをどうにか外に出し、学童（お金がかかるらしい）ではなくこども食堂（無料なので）に出てもらいたいと思いました。
- もともとのこども食堂と形は違うが、橋本なりのこども食堂を作っていくことにすればいいと思う。市が協働で補助金を出すといえいいと感じるが、そうすると全市民に情報を流す必要がある。そうすると、本当によんであげたい子どもが来れない。
- 市内には子どもさんに対するボランティアの方がたくさんいることに感心した。
- 円卓の人数5～6人。グループ4～5でも良かったのでは。3人では話しやすい部分、反面、いろいろな意見が出にくかった。
- 会議でテンポが速いのと、会場がざわつきやすくて、グループ討議は十分にできなかった。
- こども食堂を理解してもらうためにも大切な場です。認識を共有する場でもあります。もう少し時間があればと思いました。
- なかなか見えにくい「子どもの貧困」について、お話を聞いて、とても興味がわきました。
- とても有意義な会だったと思います。

＜イ＞ 橋本市で行われている「こども食堂」について、ご意見・ご感想をお書きください。

- もっと会議の数を増やし、話し合う内容を濃いものにしていく。
- コンセプトをはっきり。
- 最初に提案してくれたことは共感できることがほとんどです。

まとめのところで、①支援する専門的機関へということ ②民間の気安さ・気軽さ・・・とあるが、公はどう関わるのか。が疑問に思う。

- こども食堂には、食事以外のこと、心が豊かになる活動が必要であると思います。
- 利用者を限定しない「共生型」は素晴らしいと思いました。いろいろな可能性を秘めているのもいいなあとと思いました。
- 地域のコミュニティとして、大きな視野で進めていただきたいと思います。子育て世代には、もっと様々な問題があります。足を運ばない、足を運ばない方に届くような活動

をお願いします。

- 継続は大変かと思いますが、お体に無理のないよう続けてください！
 - いろいろ大変だと思いますが、頑張っけて続けてほしいと思います。
 - まだまだ、もっと、ずっと続けてほしい。
 - 高野口こども食堂が9月で終了となりましたが、地域の方と相談して再開する場合は、4月（新年度）から実施したいと思いますのでご支援ください。
 - まとめに書かれている2か条を「目的」あるいは「理念」としてもう少し短い文章で、またキャッチコピーのような形で、次世代の運営の原点やこの活動を広げる際の先方（協働）様への説明に利用しやすいと感じます。
 - もっと大きく活動できるように、計画を練って、市・企業の協力を得ていく必要があると感じました。
 - 行政がもっと強い指導力をもって各地域で開くことが出来るようにしてほしい。また、学校・学童の理解・協力が必要なのではと思います。
 - 「こども食堂」が市内全域に広がっていくことを願っています。行政の役割も重要。財政的支援を一層強めてほしい。それに市民の協働の力と共に発展してほしい。
-
- 行きやすい。すごくごはんもおいしくて、気軽に行けるととても良い場所。
 - お互いにこども食堂の見学、ミーティングなどがあるとよい。
 - こども食堂は現金ですか？お金を持たない（親に持たせてもらえない）子どもに来てもらうためにチケット制にして（何枚か決めて）チケットを渡して誘うことはできないでしょうか？お客さんとして来てくれた人が支援者になってくれますように。
 - 今後、少ない力ですが、私ができる範囲で精一杯行動につなげたいと思いました。一つ一つですが…。

- ①参加者の方たちから、ネットワーク・団体間の連携について言及する発言があった。こども食堂円卓会議を継続すれば、こども食堂に限らず「子どもの居場所サポート」円卓会議という形になっていくのだろうと思われた、
- ②次回は、12月21日（金）16：00～17：30 原田地区集会所⇒内容は現在未定。
この日は、橋本東こども食堂の開催日。研修・会議のあと、こども食堂の見学や食事もできるよう、橋本東こども食堂スタッフが考えていてくれている。